

災害分析の方法を間違えていませんか

2013.9.30 CSP 安全コンサルタント 増田武司

災害が発生しますと必ずその原因分析が要求されます。
言うまでもなく原因を見つけてその原因を排除して再発を防止する為です。

しかし本当の原因をうまく見つけ纏められた例に出合わすことはあまり多くありません。なぜでしょうか。原因追求の方法が次のとおりになっていないからだと思います。

原因の抽出にはまず状況調査が必要です。大抵は調査や検討をせずに、上司の経験からくる独りよがりの判断のみが生かされ災害の原因とされています。

事故や災害は、人間の不安全行動と、設備・環境の不安全さの重なりによって生じると言われますが、人間の不安全行動と、設備・環境の不安全さは多くの参考書に特性要因図としてその具体例が記されています。(例えば安全管理者一選任時研修テキスト 69 頁)
まず管理者はこのような特性要因図を見て頂き、経験上からの調査範囲に漏れが無いかを確認して事故災害の要因を拾い出してください。

よく「原因」を見つける為には、「なぜなぜ」を5回繰り返すと判ると言われますが、まず上記の要因を拾い出し、それが生じた原因をなぜなぜ問答式に抽出して下さい。

次に抽出された原因を、特性要因図(魚の骨図)としてまとめてください。先に述べました特性要因図とこの特性要因の分析図は明らかに違ったものになっているはずです。

先に述べたものが管理用特性要因図と言われるもの、今作ったものは分析用特性要因図と言われるものです。この分析用特性要因図を関係者が検討し、事故や災害の原因を特定するのです。

この2種類の特性要因図の特徴を下表に示しておきましたので参考にして下さい。
このようにして要因を分析し災害発生の原因を抽出すれば、後はその原因の再発を防ぐ方法を皆

管 理 用	解 析 用
管理の為に作成	原因追求の為に作成
トラブル発生前の予防活動 - 主要因の列挙	トラブル発生後の是正活動 - 原因の追及
演繹的・トップダウン	帰納的・現場から教わる
管理漏れなく、多く列挙	検討する程要因が減る
工程稼働前の予防 稼働開始後の補充的予防	原因と疑われるもののみを抽出 犯人を捕らえて除去するタイプの活動
知識・経験から発見・追加	データ(現地状況)から推測

で検討する事になります。

このようにして災害の原因を特定すればこの後は、原因の再発予防対策を立てることになり、実施も容易です。
このように正しく順序立てた原因追求を実施することが必要です。